

含満ヶ淵の開発に着手

ストーンパーク 史実豊かな『石の公園』に

名石コーナーや 石の彫刻展示も

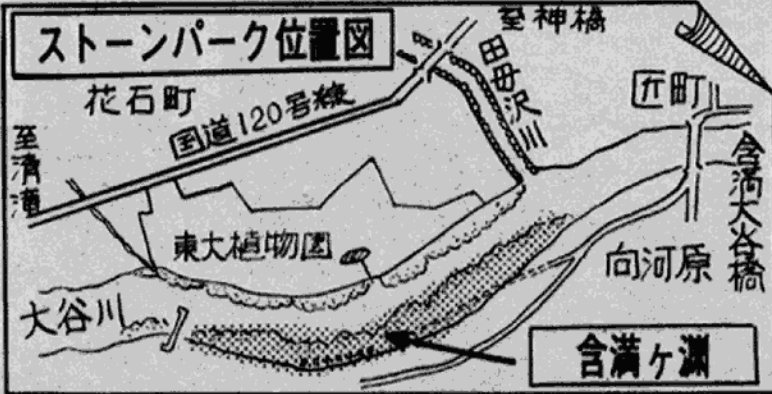
うずもれた観光資源開発のひ
とつとして、市では花石町の東
京大学附属植物園の南側にあた
る「含満ヶ淵」の開発計画をす
すめていましたが、八月二十九
日、星野市長、山本市議会議長
貴船輪王寺執事長ら一行が現地
を視察、具体的な開発案の作成
と遺跡の復元にのりだしました。
含満ヶ淵は、大谷川溪流沿い



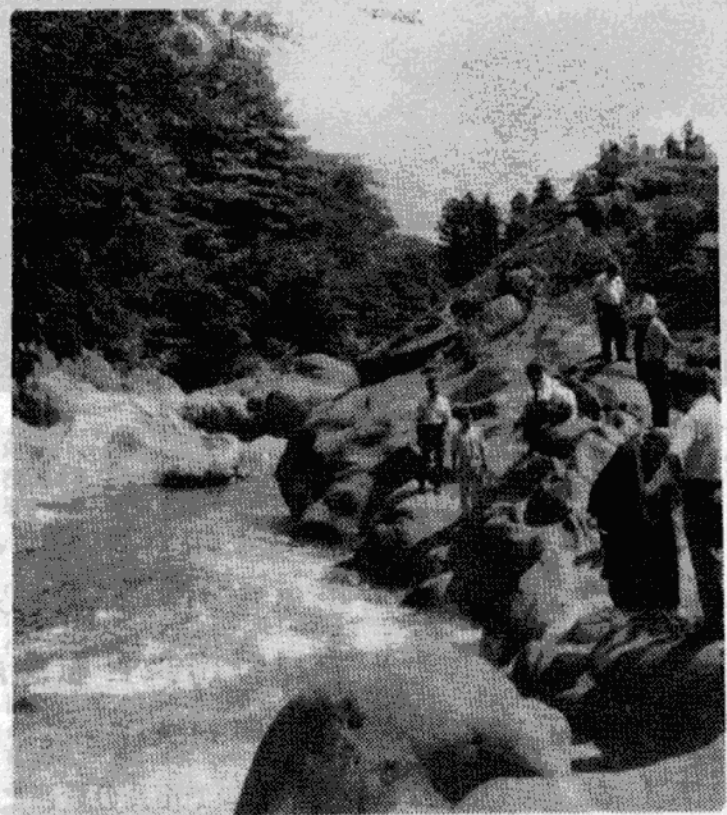
▶現地を視察する市長一行。雑草におおわれ、破損している
石地蔵も多く、さっそく整備にかかることになりました。

に女峰・赤羅山の噴火の熔岩が
流れ出てきたという巨岩群の
奇勝と、天海大僧正の門弟をは
じめ、有縁の僧俗がその菩提の
ために立てた、俗に「化地藏」
と呼ばれる並び地蔵など、数多
い史実と伝説を秘めた場所とし
て、昭和四十二年に日光市文化
財に指定されています。

今回の開発計画では、そうし
た遺跡を正しく復元するととも
に、この地域の保護とあわせて
全国の名石・奇岩や庭石・灯ろ
うなど、各種の石を展示、即売
する名石コーナーや庭石コーナ
ーの設置、時代考証的な石の彫
刻の展示など、自然との調和を
図りながらストーンパーク（石
の公園）として、探勝と信仰の
ほか観光もかねて開発していく
計画です。



◀巨岩が作り出した含満ヶ淵の奇勝



二十八日の現地視察の結果、
とりあえずこの秋に、一帯の草
刈りなどの苑地整備と、傾いて
しまった地蔵の補修などを行な
うことになりました。

含満ヶ淵のゆらい

含満はあて字で、基の字は「憾
満ヶ淵」と書きます。したがっ
て「含満」も「カンマン」と発
音するのが正しい読み方のわけ
ですが、現在は「ガンマン」と
濁って読む方が一般化されてし
まったようです。

同地は承応年中（一、六五〇
年ごろ）に兎海によって開かれ
たものですが、天保八年（一、
八三七）に発刊された「日光山
志」の日光八景の中にも「含満
驟雨」として取り上げられてお

り、戦前は訪れる人も多かつた
名勝地ですが、近年、自動車に
よる観光客が増加するにつれ、
観光コースからはずれ、淋しく
見離されていきました。

この地で有名なのは南岸沿い
に並ぶ「化地藏」で、何度数え
ても、そのたびに数が違うこと
からその名がつけられたといわ
れています。

そのほか、岩壁に山順僧上の
書を彫りつけた大きな梵字があ
り、納骨の岩屋や林羅山がその
ゆらいを書いた石碑など、史実
伝説にことかきません。

市民憲章

わたくしたち
日光市民は
文化財の愛護に
つとめましよう